



誠 実



発行者：2学年職員
発行日：令和7年7月15日

ハス（清心）

道徳通信

違いを認める共生社会の実現を！



偉人の言葉

あなたの心を明るく楽しくしようと思う
ならば、ともにくらす人々の長所を思え
アウレリウス

『リスペクト・アザース』について

中学3年生が書いた人権作文。10歳半までアメリカのサンディエゴで育った筆者の「僕」は、小さい時から「リスペクト・アザース」を根本的な考え方として育った。しかし、日本に帰国してみても、アメリカとの考え方の違いに戸惑う。周りに合わせて、「目立つ」ことを避けるために自分の良さを表に出せない実態や、冗談で侮辱的な言葉を言い合う様子を見て、日本でも「リスペクト・アザース」の精神が必要であると訴える。

教材：『あすを生きる②』（日本文教出版）

※ 写真や絵は、『あすを生きる②』（日本文教出版）からの転載

先々週の道徳では、中学生の書いた人権作文『リスペクト・アザース』をもとに、「**相互理解**」について考えました。これは、昨年度学習した相田みつをさんの詩『トマトとメロン』と同じく、「**個性の大切さ**」にもつながるテーマでもあります。

サンディエゴから帰国した筆者がぶち当たった壁。それは、なるべく同じようになるように気を遣い合っている日本人の在り方でした。うまくできたことを話すと、「それは自慢だ」と言われてしまった経験を通し、他人よりうまくいっても目立たないようにしていると感じます。十七条憲法に「和を以て貴しとなす」とあるように、日本には古来より「和」を大切にする精神があります。しかしながら、「和」を意識する余り、自分たちの個性を抑え込んでいる実態もあるのかもしれませんが、筆者は、侮辱的な言葉を言っても「冗談、冗談」とうやむやにしてしまう人権感覚にも驚いていますが、それは良い所も悪い所も含め個人を認めようとしないう姿勢に繋がっているように思えます。

筆者は語っています、「人と違っていることもまたその人の個性である」と。違いを認め合い、自分らしく生きることで、みんなが生きやすい「共生社会」が実現します。「リスペクト・アザース」とは、そのための根本的な精神と言っていでしょう。

「和」には、「混じり合う」という意味もあります。お互いの個性を尊重し合い、その個性が混じり合い調和しながら1つの集団としてまとまっていく——そこに、共生社会の「和」があるのではないのでしょうか。

みんなの声

○「リスペクト・アザース」と「みんなと仲良くしなさい」の違いとは？

- ・「リスペクト・アザース」は仲良くではなく、尊敬して接することを表す。
- ・思いやりの心の差。
- ・「リスペクト・アザース」はお互いを理解し合うこと。「みんなと～」は言われたから、表面上の行動？
- ・「みんなと～」は問題行動について言っているけど、「リスペクト・アザース」はその問題行動の根本的なことについて言っている。
- ・尊重と仲良くという違い。
- ・「リスペクト・アザース」は仲良くするのが目的でなく、違う個性を持ったお互いを尊重し合うこと。

○差別や偏見を生む原因は、どんなところにあるのだろうか？

- ・見た目で区別することが、まだ世界の文化にはあるから。
- ・友達には「できること」「できないこと」があるということへの理解不足。
- ・自分と人を比べたりするから。
- ・他人よりも上に行きたい、自分が常に一番でいたいという心。
- ・自分の地位を安定させたいから。
- ・自分よりも下（弱い立場）の人を勝手につくってしまうから。
- ・悪口を言うのが普通になってるから。
- ・その人の良さに気づいていない。
- ・自分のことしか考えず、相手の気持ちを考えていない。
- ・本当の意味で人を大切にせず、自分の思い込みを基準に人を見ている。

※ 意見は要約しています！

いじめ撲滅標語を考えました！

個性の違いを認めようとしないうことから生じるものに、「いじめ」があります。

先月の生徒総会の折、生徒会執行部から「いじめ撲滅キャンペーン」についての話がありましたが、今年も「いじめ撲滅標語コンクール」に参加することになり、全校生徒に標語を考えてもらいました。

ここでは、各組から代表2つを載せました。みなさんの作品も学年の掲示コーナーに掲示していますので、互いの作品を見ながら「いじめを許さない心」を育てていきましょう！

2年1組

いじめはね
やめるのではなく
はじめない

リスペクト
他人を尊重
大事だよ

2年2組

ガマンせず
人に相談
大事だな

勇気ある
一言で消える
負の連鎖

2年3組

考えよう
いじりといじめの
境界線

気づかない？
相手がイヤなら
それはイジメ